

まちで、みんなで認知症をつつむ ～大牟田市の取り組み～

大牟田市認知症ケアコミュニティ推進事業
～多職種協働・多世代交流・地域協働を生み出そう！～

平成25年11月8日

大牟田市長寿社会推進課

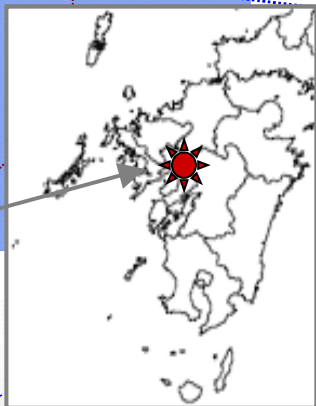
新田 成剛

福岡県大牟田市の概況

～やさしさとエネルギーあふれるまち・おおむた～



福岡県大牟田市



かつては炭鉱のまち
(平成9年三池炭鉱閉山)

●今、大牟田は
大牟田市の人口
約210,000人 ⇒ 約123,000人
(1960年) (2013年)

●高齢者数 38,803人

高齢化率 31.6%(2013年10月)

31.1%(2013年4月)

30.6%(2012年10月)

●全世帯数 57,473戸

●高齢者のいる世帯

28,488戸(49.6%)

高齢者単身世帯数

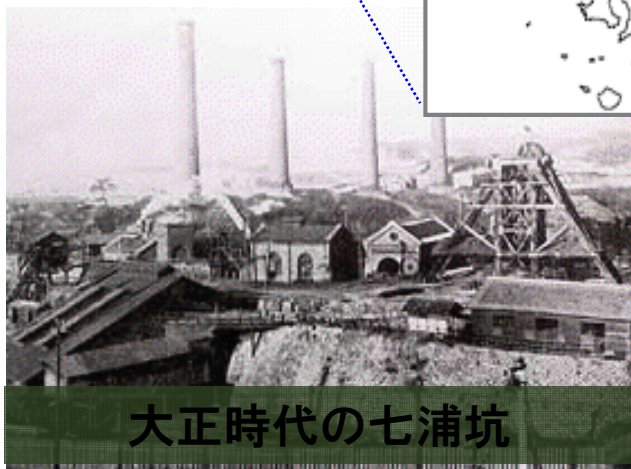
12,702戸(22.1%)

(2013年4月)

平成25年9月、今年度の世界文化遺産政府推薦案件が、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」に正式に決定！！



重要港湾 三池港



大正時代の七浦坑



宮原坑 (重要文化財)

平成12年4月 介護保険制度スタート

「介護保険制度をより良いものにしていくためには、事業者と一緒に
なって全体のサービスの質を高めなければならない」



多職種協働による制度の運用と
サービスの質の向上が必要

■大牟田市介護サービス事業者協議会

介護サービス事業者の資質の向上、事業者間のネットワーク化による円滑なサービス提供、利用者の立場に立った質の高い介護サービスの研究・実施を目的として、平成12年3月に設立された組織です。**認知症ライフサポート研究会**やホームヘルパー研究会、小規模多機能連絡会といった部会により、様々なサービスの質の向上に取り組んでいます。（平成24年3月末会員数：事業者会員80法人260事業所）

■大牟田市介護支援専門員連絡協議会

介護支援専門員の資質の向上とネットワーク化により、自立支援を基本とした介護支援業務の円滑な実施に資することを目的として、平成11年12月に設立された組織です。対人援助専門職としての専門的知識及び技術の向上を図るための研修事業などに取り組んでいます。（平成24年3月末会員数：事業所会員45事業所、個人会員294人）

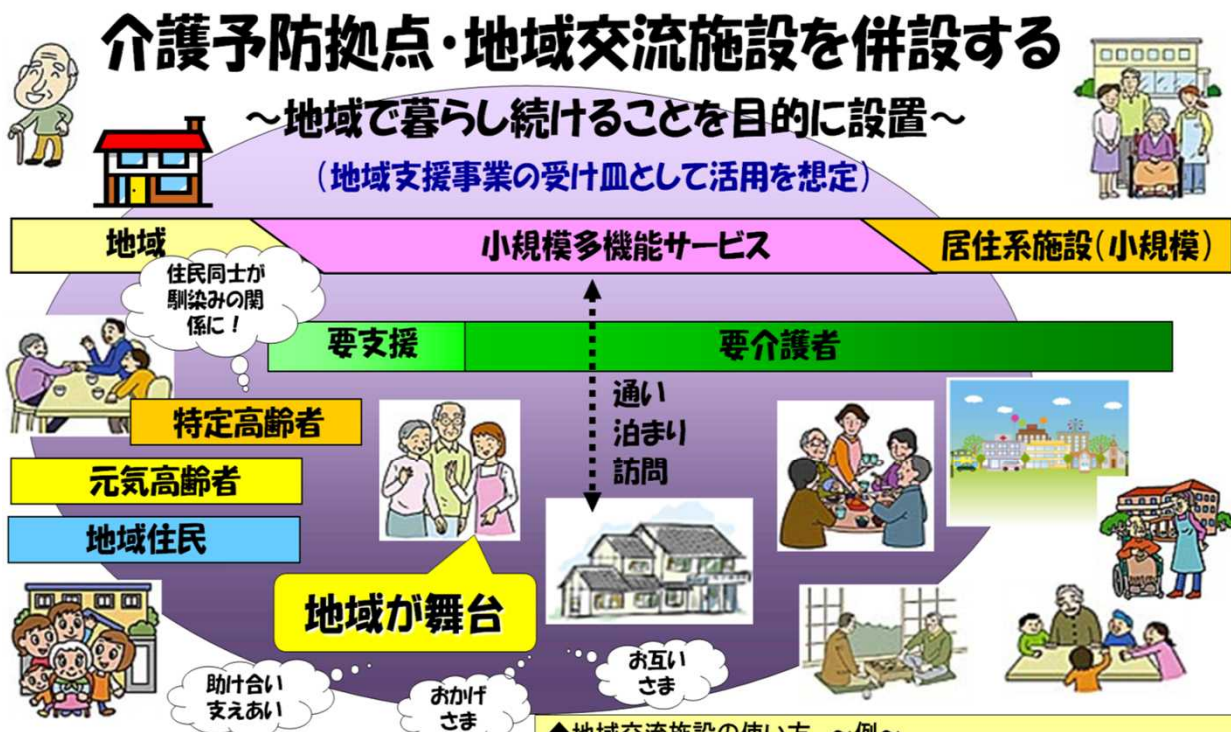
大牟田市の小規模多機能型居宅介護事業所 MAP

平成 23 年 8 月現在



小規模多機能型居宅介護事業所と併設した地域の交流拠点の設置(大牟田市)

- 通いを中心に、訪問や泊まりのサービスを提供する小規模多機能型居宅介護に、介護予防拠点や地域交流施設の併設を義務付け、健康づくり、閉じこもり防止、世代間交流などの介護予防事業を行うとともに、地域の集まり場、茶のみ場を提供し、ボランティアも含めた地域住民同士の交流拠点となっている。
- 平成24年3月末現在、小規模多機能型居宅介護事業を行っている24事業所に設置。



場の提供だけでは不十分!そこに人と人を結びコーディネーターが必要である。

小規模やGHに併設する地域交流施設には、**認知症コーディネーター**を配置し、地域まじづきを推進する。

◆地域交流施設の使い方 ～例～

開設時間:毎週月曜日～金曜日(午前10時～午後4時)

管理体制:職員1名を配置(※将来は地域住民による自主運営)

利用状況:主に介護予防(健康づくり)や趣味活動に利用

囲碁クラブ、脳の健康予防教室、そよかぜ学童、陶芸教室など

ご近所の方によるお茶会



ペン習字教室

地域認知症ケアコミュニティ推進事業 H14年度～

認知症の人の理解が深まり、
地域全体で支えるしくみをつくり、
認知症になっても、誰もが
住み慣れた家や地域で、
安心して豊かに暮らし続ける…
そんな願いを叶える「まちづくり」です。

～多職種協働・多世代交流・地域協働を生み出そう～

認知症コーディネーター養成研修



認知症の人の尊厳を支え、本人本位の認知症支援の牽引役、まちづくりの推進者の育成

2年間の研修を終えたコーディネーター修了生は、所属事業所内で認知症ケアを実践する他、地域に認知症の理解を浸透させるために様々な取り組みを実践



もの忘れ予防・相談検診 ～介護予防教室「ほのぼの会」



早期支援

認知症の早期発見・早期対応を目的として、もの忘れ予防・相談検診を実施

フォローが必要な人は、地域交流施設で開催する認知症予防教室へ

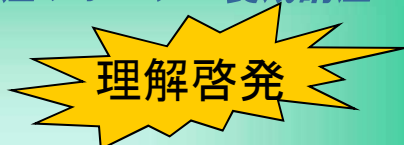
認知症サポートチーム（全国モデル）による継続支援



大牟田市地域認知症ケアコミュニティ推進事業

小中学校の絵本教室

認知症サポーター養成講座



子どもの時から、認知症の人の気持ちや支援について学ぶため、小中学校での認知症の絵本の読み聞かせとグループワーク

地域や職域団体等を対象に認知症の正しい知識やつきあい方を学ぶサポーター養成講座（7,744人）



高齢者等SOSネットワーク ～徘徊模擬訓練～



地域づくり

SOSネットワークの実効性を高めるための模擬訓練（9年目）

認知症になっても安心して暮らせるまちをつくるために、市民へ認知症の理解と見守りの重要性を啓発し、日常的な声かけ・見守りの意識を高めるとともに、徘徊行方不明発生時に対応するSOSネットワークを構築



認知症コーディネーターの養成

デンマークでは、認知症コーディネーターが介護現場や家族、本人へのさまざまな支援を行っています。

認知症コーディネーター養成研修は、デンマークをモデルに、認知症ケアやまちづくりの牽引役を育成するための本市独自の人材育成プログラムです。

カリキュラムも幅広く、専門性高い、しかも人間味あふれる内容です。

- ・モラル、倫理観、人間観
- ・脳の機能や疾患、治療
- ・コミュニケーション
- ・ユーモアとファンタジー
- ・人権 ・住まい などなど

認知症の専門家は、深く「人」を理解する専門家と言えます(25年6月で85名が修了)



- 受講生（12人×2期生）は毎月2日間、履修項目に従った研修に取り組んでおり、その内容は講義形式よりもディスカッションやグループワークに中心をおく。
- 受講期間：2年間
- 受講費用：年間10万円

**ケア現場や地域で、認知症の人の尊厳を支え、
本人や家族を中心に地域づくりを推進していく人材**

「認知症コーディネーター」養成研修



**履修期間2年間／計386時間(座学と実践学習、課題実習等)
到達目標**

- ①認知症ケアや支援の実践現場において、権利擁護とパーソンセンタードケアを根底にしたよい質の高いケアを牽引できる人材育成
 - ②地域をフィールドに、認知症になっても誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指して、地域ケアを推進できる人材育成
 - ③大牟田市における地域認知症ケアコミュニティ推進事業を担える人材の育成
 - ④大牟田市における認知症コーディネーター(地域支援推進員)として役割を担える人材の育成
- ※履修が修了条件ではなく、『共通理念と協働できる人材か』が条件**

ほっと安心（徘徊）ネットワーク

1. 認知症の人と家族を支え、見守る地域の意識を高め認知症の理解を促進していく
2. 徘徊高齢者を隣近所、地域ぐるみ、多職種協働により可能な限り、声かけ、見守り、保護していく実効性の高いしくみの充実
3. 認知症になっても安心して暮らせるために「徘徊＝ノー」ではなく、「安心して徘徊できる町」を目指していく

大牟田地区高齢者等SOSネットワーク

電話連絡(事案発生)

大牟田警察署

捜索願い

家族等

FAX配信

FAX配信

大牟田市長寿社会推進課

大牟田市消防本部

県土整備事務所

みやま市役所介護健康課

大牟田郵便局

三池郵便局

J Aみなみ筑後(大牟田地区)

はやめ南人情ネットワーク

大牟田タクシー協会(富士タクシー)

西鉄バス大牟田

JR大牟田駅

西鉄柳川管理駅

にしけい

大牟田ガス

大牟田薬剤師会

愛情ねっと(メール配信システム)

ほっと・安心(徘徊)ネットワーク 情報提供シート

(24年 7月 26日 10時 00分 発信)

〔所在不明者情報〕

氏名： 大牟田 一郎 年齢： 96 歳 性別： 男

住所： 大牟田市有明町

所在不明発覚時の時間(届出)： 7月 26日 09時 30分 分頃

服装：	上	緑色のジャンパー（フード付き） ハイネックシャツ（色不明）
	下	Gパン
	履物	運動靴（紺色の線入り）
	持ち物	セカンドバッグ
	その他	

身体的 特徴：	身長	155 cm	体重	50 kg
	体格	やせ型		
	髪型	頭頂部がはげている		
	その他	眼鏡（上部が黒縁）		

認知症の有無： 有（ 軽度 ）

名前が言える。連絡先が言える。

徘徊歴の有無： 有（ 保護された場所

三里町方面で保護 2年前位前

不明前の様子

特に問題はなかった

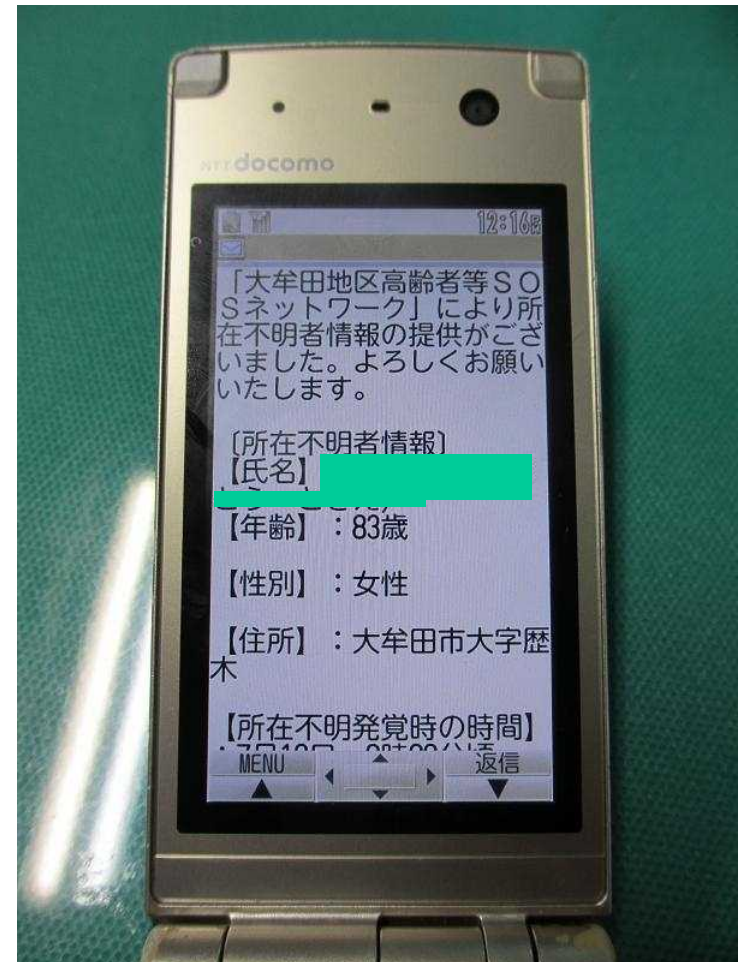
その他（本人がよく通っていた場所や実家等）

〇〇クリニック（白川12-34）

情報提供同意の有無： （ 有 ）

消防署へのメール発信依頼： （ 不要 ）

愛情ねっと
(携帯へのメール送信)



大牟田市長寿社会推進課

生活支援ネットワーク

FAX又はメール配信

介護支援専門員連絡協議会
介護サービス事業者協議会

地域包括支援センター
介護予防・相談センター

校区民生委員・児童委員会

FAX又は電話

大牟田市社会福祉協議会
大牟田市障害者協議会
大牟田医師会・歯科医師会
大牟田薬剤師会（相談薬局）

商店街組合など（今後の目標）

地域支援ネットワーク

FAX又はメール配信

介護予防拠点・地域交流施設

校区内ネットワーク

民生委員・児童委員

町内公民館長・福祉委員
校区社会福祉協議会
老人クラブ・いきいきクラブ
商店・学校・PTA・交番
など

徘徊SOSネットワーク模擬訓練の開催

年1回
市内全校区
“今年で第10回”

【模擬訓練前日までに】

1. 全体連絡会議

模擬訓練を開催するにあたり、各地域の代表者やSOSネットワーク参加団体、介護サービス事業所、医療機関との情報共有・連携等を図るため、開催する決起集会。



【模擬訓練当日】

2. 警察より情報発信

行方不明者の家族から大牟田警察署生活安全課に捜索願が出されたと想定し、SOSネットワークを通じ徘徊情報が関係団体に発信される。

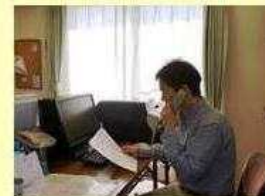


3. 市役所より情報発信

警察署からの連絡を受け、長寿社会推進課では介護事業所および医療機関へ情報を発信。また、地域福祉推進室から民生委員・児童委員の方々へFAX送信。中央地域包括支援センターから、愛情ねっと登録者へメールでの情報配信。

4. 各校区拠点より情報伝達★

□校区ごとに作成した情報伝達網を活用し、情報伝達を行う。できるだけ「はやく・正確に・末端まで」が目標。



5. 各校区にて捜索・声かけ訓練★

□各校区の体制に應じ、捜索および声かけ訓練を行う。校区によって、捜索に重点を置いたり、声かけ訓練に重点を置いたり、スタイルはさまざま。



6. 訓練本部報告会／校区反省会

□模擬訓練が終わったあと、本部では訓練結果の速報を行う。各校区でも反省会を行い、「情報伝達ははやく・正確にできたか」「声かけは上手にできたか」など、次年度に向けて検証を行う。



徘徊模擬訓練のこれまでの経過

平成16年 駿馬南校区で初めて開催する

平成19年 市内全域へ広がる ⇒ 地域の取り組みは7校区へ

○福岡県市長会南ブロックにおいて、福岡県南の市町村で広域連携に向けた取り組みを進めることを提案

平成20年 模擬訓練に向けて認知症の啓発を強化

- 認知症サポーター講座を職域・小地域で開催
- 筑後田園都市推進評議会(福岡県)が主体となって広域ネットワークの整備に取り組むことを確認

平成21年 地域の取り組みが18校区に広がる

平成22年までには、全ての校区が取り組みを実施

平成23年 徘徊模擬訓練を初めて平日に開催

平成24年 福岡県南12市町による「ちくご高齢者等SOSネットワーク」の運用開始(5月)及び熊本県北部(荒尾・南関・長洲)との連携の開始(3月) ⇒ 広域連携がスタート

大牟田市の取り組みの特徴

～校区実行委員会の設立～

声かけ訓練や情報伝達網の再整備、認知症サポーター養成講座など必要となる取り組みについては、各校区それぞれにおいて検討を進め、訓練当日に先立つ準備として各校区で事前に実施する。

実行委員会メンバー（校区によってメンバーは異なる）

- 民生委員・児童委員協議会
- 校区町内公民館連絡協議会
- 校区社会福祉協議会
- 地域交流施設・地域包括支援センター
- 認知症ライフサポート研究会運営委員
- 大牟田市長寿社会推進課

有明新報【平成24年8月24日付】

若者の連携が命救う



「当たり前のこと」などと話す岡山雪、堀内碧、堤洋子さん、理絵さん(右から)

大牟田署 高校生ら4人に感謝状

大牟田警察署(高木正浩署長)は二十一日、道に迷っていた高齡の女性(83)に声を掛けた高校生と連絡を受け、同署主で車に乗せた自営業の女性ら四人に同署で感謝状を贈った。高木署長は「若い人の連携が命を救った。とてもありがたい」とたたえた。

とてもありがたい

[illegible]

助がなかつたら二三、四
同署では四人の行
つていた。四人は当然り前
のことはしなす、女性
性は困つていた様子を
うづつていふと、
も考へるゝなつとす
るてゐる。
(市原 裕)

(江頭裕)

声掛け、熱中症予防
—炎天下に高齢女性保護

中学生3人へ感謝状

大牟田署



感謝状を受け取った生徒3人

大牟田警察署（上野恵造署長）は、十三日、道に迷っていた高齢の女性（76）を適切に保護したとして、大牟田市米生中学校の女生徒三人に感謝状を贈った。炎天下、声掛けから熱症予防まで、三人が行ったこまやかな心遣いに對し上野署長は、「大牟田はお年寄りの多い地域。皆さんの活動は助かります」とたたえた。

（13）、池永志織さん（13）今月三日午後一、温は三十六度。三人は（12）、川津愛奈さん、時半ごろ、遊びに出掛、中症を心配し、自動

三人は、いずれも同校（1）の年中嶋希世さん

の認知症だというのが、名前と住所覚えていないため、同輩が皇皇に逢った。感謝状に意を取った中嶋さんたちは、訓練が役に立った、池永さんがびつくりした。川津さんは「うれしかった」と笑顔を見せた。

今年、月から七月末まで、認知症を原因に同署の関わった六十五歳以上の高齢者の保護事案は百一併。前年より三十八件増えていた。

江頭裕一

白川校区と白光中学校の取り組み

ほっと安心(徘徊)SOSネットワーク
はい かい も ぎ くん れん

徘徊模擬訓練

in しらかわ 2013



見守り・声かけ
みんなで支え合う 白川校区

と き : 9月22日(日) 9:00~13:00
と ころ : 白川小学校 体育館 にて
訓練時間 : 10:00~ 白川校区 全域

協働開催 : 校区公民館連絡協議会、校区社会福祉協議会、校区民生・児童委員連絡協議会
後 援 : NPO法人 しらかわの会

お問い合わせ 白川校区徘徊模擬訓練実行委員会 事務局 電話:53-4191

絵:三吉 有里(白光中学校3年生)

ほっと安心(徘徊)SOSネットワーク
はい かい も ぎ くん れん

徘徊模擬訓練

in しらかわ 2013



「どこに行きよんなさっと？」
…その声を 待ってる人がいる

と き : 9月22日(日) 9:00~13:00
と ころ : 白川小学校 体育館
訓練時間 : 10:00~ 白川校区 全域

協働開催 : 校区公民館連絡協議会、校区社会福祉協議会、校区民生・児童委員連絡協議会
後 援 : NPO法人 しらかわの会

お問い合わせ NPO法人 しらかわの会 事務局 電話:53-4191

絵:山口 蒔乃(白光中学校2年生)

高校生の訓練参加者募集について

（多世代交流による取り組み）

【経緯】

○徘徊模擬訓練は、これまでの10年間の取り組みにより、市内全校区で訓練が開催されるようになるなど、認知症高齢者の見守りや声かけ等に対する住民の意識も高まりつつあります。

○大牟田市では、認知症の普及啓発の一環として、「小中学校の認知症絵教室」を行なうなど、認知症を高齢者のみの問題ではなく、多世代交流による取り組みも進めています。

○新聞報道にあるように、中・高校生が実際に高齢者を保護するといった事例も報告されています。

○模擬訓練が今年で10回目を迎えることから、これを契機に多世代交流事業を一步前進させるため、市内高校生から訓練参加者を募り、地域の取り組みへ参加を促したいと考えています。



【到達目標】

○高校生に、認知症を地域で支え見守る取り組みに関心をもってもらう。

○実際に地域の取り組みに参加することにより、搜索活動や地域活動を実体験してもらう。

○校区の取り組みに、若い世代の考え方を取り入れてもらう。

【取り組みのイメージ】

①地域交流施設にて徘徊行方不明者情報を受け取った後、搜索活動に参加

⇒遭遇しやすいように、「〇〇を中心に搜索を」といった配慮を。

②徘徊者役のサポーターとして同行し、実際の声かけ見守りがどのように行われているかを見聞きする。

③校区反省会へ参加し、感想の発表や意見交換の場を設ける。

※高校生の受け入れ校区については、参加希望状況により、各校区へ依頼させていただきます。折角の機会なので、高校生に訓練参加の実感や地域との触れ合いが持てるよう配慮や工夫をお願いします。

校区実行委員会反省会の開催

- ◎訓練実施にあたり、各校区実行委員会はこれまでの取り組み成果や抱える課題を把握し、取り組む訓練内容に応じて訓練目標を設定する。
- ◎訓練終了後は、把握した訓練成果について校区実行委員会内で共有し、課題の抽出や今後の取り組みの参考とする。

【参加者の声】

- メール機能を最大限生かしつつ、電話連絡の効果を最大限に発揮できるような仕組みづくりをする必要がある。
- 検索時にチーム、時間、検索範囲を決めて行動開始したため、むやみやたらという感じではなく、動きやすかった。
- 回覧板・広報誌で周知は行われているが、訓練を繰り返すことで住民の認知度が上がると思う。(第1発見者は、一般の方だった。)
- 徘徊模擬訓練や認知症に対する興味・関心不足故に「訓練のための訓練」になっているのではないだろうか？
- このような訓練を行うことで、参加者が日常の生活をしながら近隣への助け合いの気持ちが深まるのではなかろうかと感じた
- 訓練が目的ではなく、徘徊があったときにどうするかという視点でのシステム作りが大切。



徘徊SOSネットワーク模擬訓練 実施結果

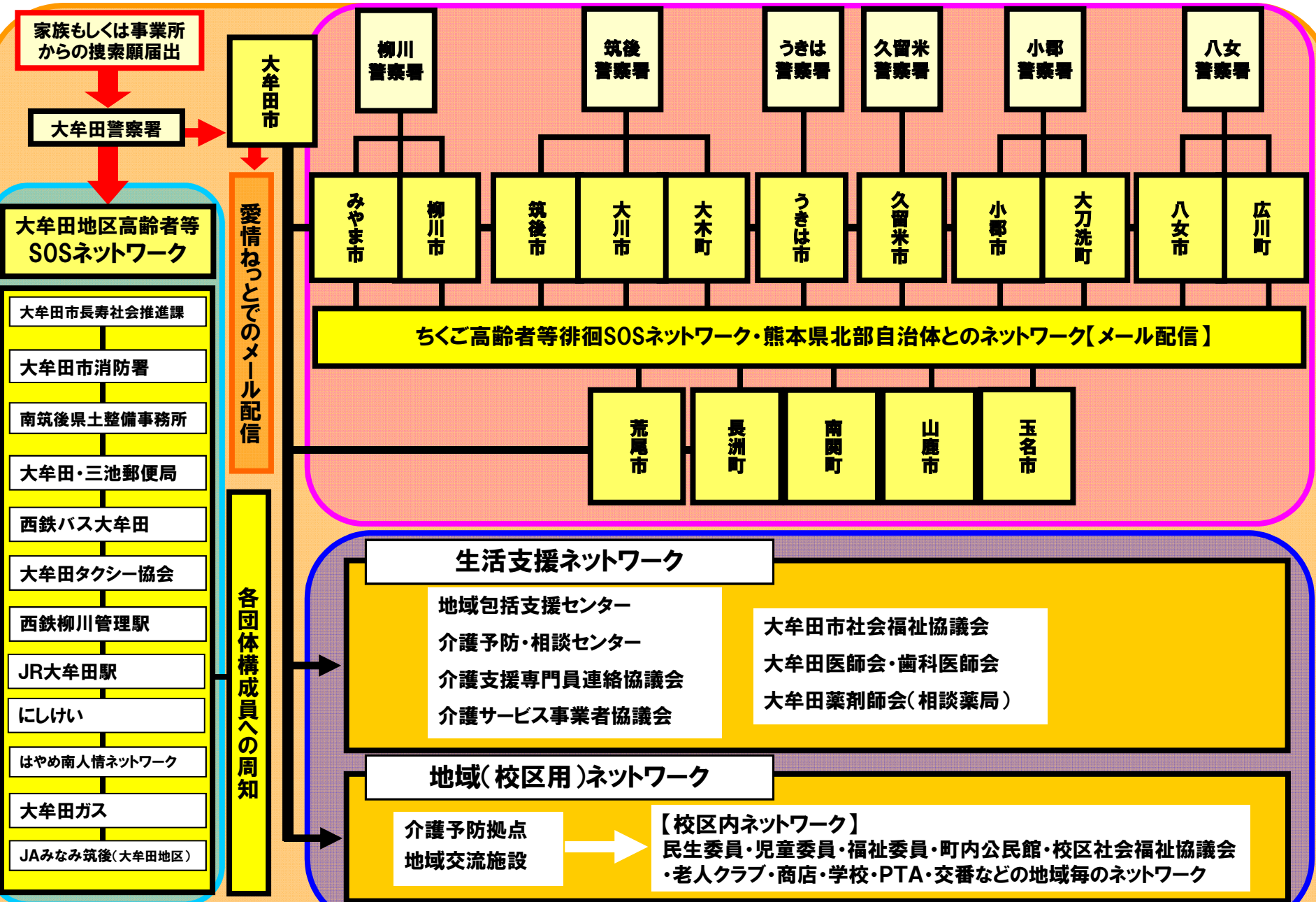
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
模擬訓練参加者	311	612	881	898	1,865	1,717	2,019
当日のスタッフ	142	213	445	343	142	151	-
訓練参加者合計	453	825	1,326	1,241	2,007	1,868	2,019
徘徊役の人数	15	34	82	80	1	47	69
徘徊役に声をかけた人数	97	333	1,126	556	3	886	953
模擬訓練参加校区	7	9	18	21	(全校区) 22	22	21
他都市からの視察	21	18	136	131	115	147	138

※24年度末に、天道小学校と笹原小学校が合併し、全21校区となった。

(人)

※25年度当日スタッフ数は、参加者に含む。

大牟田地区高齢者等SOSネットワーク 行方不明発生時情報伝達イメージ



大牟田市地域認知症サポートチーム

メンバー構成

平成23年10月から
本格実施

- ・ 専門医（精神科・老年内科：4名）
- ・ 認知症医療センター医師（神経内科：2名）
- ・ 介護・看護職（認知症コーディネーター：6名）
- ・ 認知症連携担当者（長寿社会推進課：1名）

役割

- ・ いわゆる困難事例へのスーパーバイズ
FTD, 若年性, 高度BPSD, 受診拒否, 自動車運転
- ・ かかりつけ医との医療連携
- ・ 認知症何でも相談室（週1回、於:大牟田市保健所）
- ・ 介護サービス事業者へのアドバイス・指導、連携
- ・ 定例カンファレンス（月1回の事例検討会）
- ・ もの忘れ予防・相談検診、予防教室の結果解析
- ・ 予防教室・参加者のフォローアップ
- ・ 若年認知症本人交流会、介護家族交流会のコーディネート
- ・ 啓発活動、予防教室の活動立案、資源マップ

若年性認知症本人のフレンドシップキャンペーン@三池山

若年性認知症本人交流会

“ぼやき・つぶやき・元気になる会”

を毎月1回開催

「仲間の役に立ちたい！

励まし合いたい！」

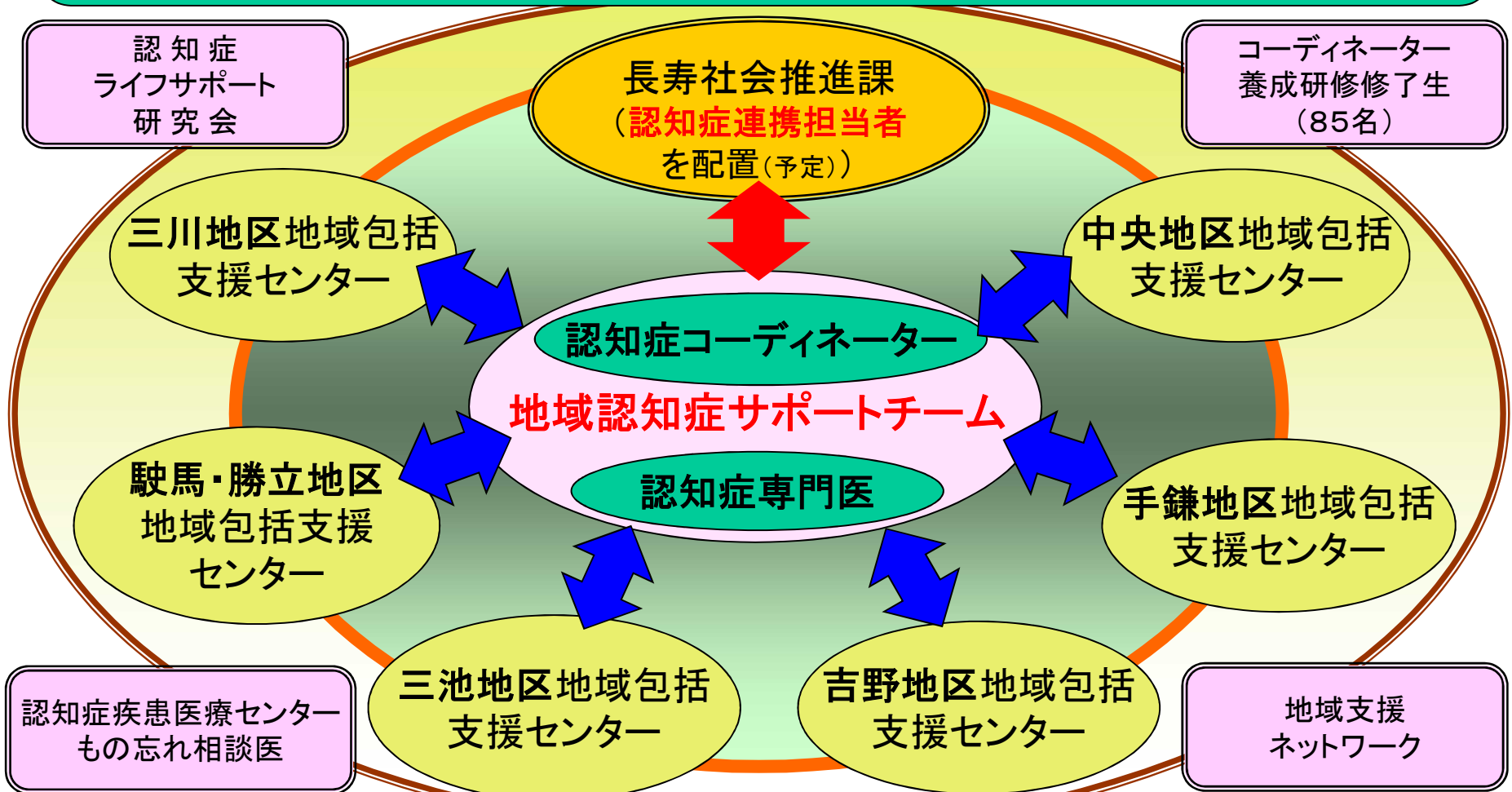


平成24年3月25日(日)、若年性認知症当事者とご家族、支援者や帝京大学福岡医療技術学部のボランティア、大牟田市介護サービス事業者協議会認知症コーディネーター研修生・修了生らとともに、“若年性認知症”の普及啓発と当事者の皆さんの健康増進、親睦を図る目的で、大牟田市東部の三池山登山を行いました。

大牟田市の地域認知症サポート体制（チーム）

○地域包括支援センター（6ヶ所）の支援機関として基幹的なサポートチームを設置。認知症コーディネーターと認知症専門医とが連携し、BPSD等の困難事例や特別なサポートが必要なケースを中心に、適切な助言や本人・家族への支援をコーディネートしていく仕組みを構想。

○あわせて、市内地域密着型サービス事業所（小規模多機能型居宅介護・認知症高齢者グループホーム）や地域包括支援センターには、認知症コーディネーター養成研修修了生を配置することにより、共通の理念に基づくケアの実践を担う専門職同士のネットワークを通じ、事業所間、または事業所と地域包括支援センター間の更なる連携強化を目指す。



誰もが支えあう地域を目指して

認知症はあくまで“きっかけ”

○絵本教室で子供たちに伝えたいこと

- ・高齢者を敬う気持ち
- ・ともに助け合い支え合う地域社会の大切さ

○徘徊模擬訓練をとおして目指すこと

- ・市民へ認知症理解を広げること
- ・地域コミュニティの再構築

多職種協働、世代間交流、地域協働のまちづくりの推進